

祭りの情熱が地域の絆強める

鵜川・にわか祭



海瀬神社にずらりと並んだ各町内のにわか



ハケや筆で色を塗る高出さん（左）と洲崎さん

鵜川 海瀬神社の祭礼「にわか祭」は8月22日に開催されました。各町内自慢の「にわか」9台が鵜川の街中を疾走。勇壮な姿を見せました。

海瀬神社周辺は「海瀬組」と呼ばれる町内です。にわかに使用する絵は、祭りの舞台・海瀬神社の拝殿で描かれます。昨年まで他の町内の絵師の手を借りて描いていましたが、町内に住む若者7人で絵を描く機運が高まり、今年初めて筆をとりました。

作業はそれぞれの仕事が終わってから、夜7時頃に始まります。制作にあたった高出隼人さんと洲崎瞳さんは「どのように作業すれば良いのかが分からなくて、メンバー同士で意見が対立することもありました」と振り返ります。「にわか絵は神様に捧げるもの。自分の町内の祭りだから、絵が一番の仕上がりになりたい」。こだわりがあるからこそ、一人一人が真剣に取り組みます。

海瀬組が描いたのは忠臣蔵の登場人物「俵屋玄蕃」。祭りの日は太鼓を鳴らしながら街中を練り歩き、無事、海瀬神社に奉納されました。

「にわか祭は神に感謝できる大切な日。神に捧げる気持ちをお忘れください」。7人の若者の結束が、祭りを終えてより強くなりました。



太鼓を打ち鳴らし、勇壮に進む海瀬組のにわか

町を彩るきらびやかな人形

松波人形キリコ祭り



第一位に輝いた第一組の人形

松波 人形キリコ祭りは7月25日に開かれ、きらびやかな人形が飾られた、各町内のキリコ9台が町を練り歩きました。

内浦福祉センター前では、人形の出来栄が競われました。各町内会で数週間かけて制作された自慢の人形です。投票の結果、第一組の「大力 畠山重忠」が第一位に選ばれました。

夜には松波中央交差点で、ライトアップされたキリコが一台ずつ順に乱舞を見せ、見物に訪れた人たちが大きな拍手が贈られました。



乱舞するキリコ

内浦福祉センター前に集合した各町内自慢のキリコ

今年はネットでも町の魅力発信

ござれ祭り

ござれ 祭りは8月22日、柳田植物公園で開かれ、各地区のキリコ16台と姫のどいやさ祭の袖キリコ2台が芝生広場に勢ぞろいしました。今年

は初めて、上長尾の出車も参加し、祭りに華をそえました。グルメテナントもずらりと並び、能登牛やブルーベ

盛り上がりを見せるニコニコ町会議の会場



リーなど、能登の魅力ある食材を提供しました。

映像配信サイト「ニコニコ動画」の交流イベント「ニコニコ町会議」も実施され、主催者発表で22万6千人が動画配信や会場イベント参加を通じて町の魅力に触れました。多くの若者が遠方から訪れるなど、交流人口の拡大にも貢献しました。

夕方には野田大キリコなどが運行を開始。実習で訪れていた東海大学観光学部（学生も一緒に担ぎ、能登の祭りを体験しました。夏の楽しい一日は、花火でフィナーレを迎えました。

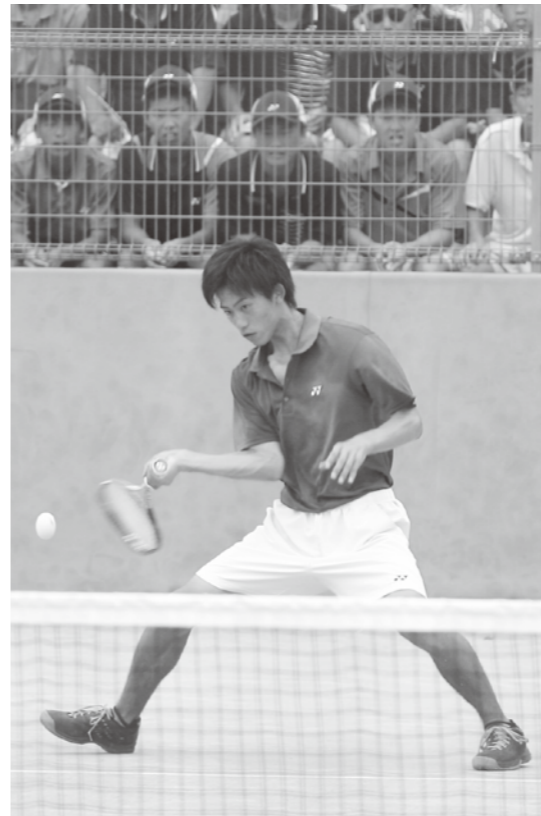


キリコの真上で開く、大迫力の花火

夏、輝き見せたアスリートたち

この夏、能登町のアスリートたちが全国の大舞台上で活躍。すばらしい結果で町を勇気づけてくれました。

大舞台上で気迫を見せる因（左）、米澤の両選手



「次こそ優勝」

ちなみ

因・米澤へア準優勝

インターハイで健闘・団体も3位に輝く

ある米澤真琴監督は「日本一まであと一本と押し込んだが、相手が力を発揮していた。周囲の期待が高い中でよく頑張った」とたたえました。

男子団体でも能登高校は3位の好成績。高宮眞選手は「プレッシャーもあったが、一戦一戦チームがまとまっていくのが分かった」と振り返りました。9月から11月にかけて、国体や天皇杯など大きな大会が控えています。選手たちは「次こそ優勝」と力を込めました。



第3位に輝き表彰式に臨む男子団体のメンバー

7月28日から31日にかけて、奈良県橿原公苑明日香庭球場で開かれた全国高校総体ソフトテニス競技で、**因京将・米澤要へア**が準優勝に輝きました。

因選手は新潟県村上市出身。珠洲市出身の米澤選手とは、小学生の頃から北信越大会で顔を合わせていて、能登高校入学前から良く知る仲です。中学生の時、米澤選手が「一緒に日本一を目指そう」と誘い、新潟県から越境入学し、共に歩んできました。2人の闘いについて、米澤選手の父でも

「これからも野球を続けたい」

柳田小6年古谷さん・全国大会で活躍

日本野球機構が主催する、小学生女子学童野球の全国大会「NPBガールズトーナメント」の石川県代表チーム「**輝プリンセス**」に、柳田小6年の古谷来さんが参加しました。

試合は8月9日から埼玉県で開催されました。古谷さんは3試合に出場し、2試合目の対品川レディース戦では、二塁打を放ち得点につなげ、チームの勝利に貢献しました。輝プリンセスは

初出場ながら、堂々のベスト8に輝きました。

小学3年の時に柳田スターファイトーズに入団した古谷さん。週4回の練習をこなし、レギュラーとして各地で試合に出場するうち、県代表監督の目に止まりました。古谷さんは左投げ、右打ち。投手として代表チームに起用されました。大会では、マウンドに立つこ



県代表のユニフォーム姿で役場能都庁舎を訪問。持木町長から激励を受け、笑顔を見せる古谷さん。

とこそかなわなかったものの、内野手・外野手として出場しました。「思うようにヒットが打てず、悔しかったけど、プロ野球選手が使うような広い球場で試合をしたのが楽しかった」と大会を振り返りました。県代表チームは古谷さんを含め20人。学業や試合の合間をぬって合宿などに励みました。「話をしたり、遊んだり、みんなと仲良くできたことが楽しかった。」と代表チームでの充実した日々を話してくれました。



来年は中学生となる古谷さん。中学で野球部に入るかどうかはまだ決めていないようですが、「これからも野球を続けたい」と意欲をにじませました。

当日地区の顕彰会 戦後70年の節目に
白洲大尉の顕彰碑に献花

太平洋戦争中に戦艦大和に乗艦し、21歳で戦死した白洲大尉をしのぶ白洲大尉顕彰会は8月8日、当日地内に立つ慰霊碑前で、戦後70年の節目に献花式を行い、平和の尊さをかみしめました。

旧海軍兵学校の後輩で碑の建立に尽力した七尾市の88歳・直江敬次さんも参列。会員ら14人が碑の周辺を清掃し、花束を供えました。碑は、大尉の父清忠氏の生家前に平成21年に建立されました。



大尉の冥福を祈る直江さん（右から2人目）と遠縁の花井信子さん

新任ALT辞令交付
ようこそ能登へ! メーガン先生

役場能都庁舎で8月7日、新任ALTに辞令が交付されました。着任したのはワシントン州出身のマッカーシー・メーガン・アン先生です。日本に留学経験のあるメーガンさんは「英語を教えることが楽しみです」と日本語で意気込みを話し、持木町長は「子どもたちに生きた英語とアメリカの文化について教えてください」と活躍を願いました。メーガン先生は松波小・中、小木小・中、柳田小で英語を教えます。



持木町長から辞令を受け取るメーガン先生

試験管内の変化の様子に見入る児童たち



東海大学親子理科教室
身近にある「不思議」を学ぶ

東海大学の海洋学部による理科教室が8月14日、越坂ののと海洋ふれあいセンターであり、小学1～5年の児童8人と保護者が参加しました。レモン汁や虫さされ薬など、身近な液体が酸性かアルカリ性なのかを調べたほか、ペットボトルを使って実験し、酸素と二酸化炭素の水の溶けやすさの違いを体感しました。実験を通じて地球温暖化の原因とされる二酸化炭素の存在を確認し、環境保全の大切さを学びました。

能登の振興につなげようと活発に意見交換する参加者



能登地域振興フォーラム
環日本海地域の活性化を考える

「能登地域振興フォーラム」が7月19日、ラブロ恋路で開かれました。この会議は、能登地域の活性化を探るため、北東アジア地域との交流を考えるもので、環日本海地区で研究を行う大学教授や地域住民ら約40人が参加しました。パネルディスカッションが行われ、国土交通省の館逸志大臣官房審議官は「環日本海の開発が進む現在、住む人も日本海側の重要性を見直してほしい」と強調しました。

里山のシンボル カワヤツメ稚魚放流
自然豊かな町野川をいつまでも

7月23日、柳田地内の町野川で柳田小学校6年生の児童がカワヤツメの稚魚を放流しました。石川県立大学生物資源環境学部の柳井清治教授が今年6月、卵からふ化に成功した稚魚で、体長はおよそ1センチほどです。児童たちは泥のよどんだ場所にそっと約100匹の稚魚を放流しました。

カワヤツメは「ヤツメウナギ」として、柳田地区の冬の味覚として珍重されてきましたが、護岸工事や農薬の使用など環境の変化を受けて激減し、環境省のレッドリストで「絶滅危惧Ⅱ類」に指定されています。小間生の道重重一さんは水揚げ量の回復を願い、ふ化に使用するカワヤツメを柳井教授に提供してきました。道重さんは「カンコ漁」と呼ばれる伝統漁法を児童に披露し、里山保全の大切さを訴えました。



針金でカワヤツメを引っかける「カンコ漁」を披露する道重さん



カワヤツメの稚魚を観察する児童

小学生水泳交歓会
記録更新目指し力強く泳ぐ

町小学生水泳交歓会は8月3日に松波小学校のプールで開かれ、町内の小学5年生105人が参加しました。25分自由形やバタフライ、背泳ぎなど6種目で競われ、児童たちは自己ベスト更新を狙い、力強い泳ぎを見せました。

学校別の対抗リレーでは、見学に訪れた保護者や、プールサイドの同級生から力が入った声援を受け、懸命に泳ぎました。



同級生からの応援を受け、力泳をみせる児童たち

小間生公民館で久田和紙のうちわ作りに挑戦する留学生



第28回ジャパンテント
町の伝統に触れる4日間

日本で学ぶ世界各国の留学生が石川に集う「ジャパンテント」が今年も開催され、8カ国9人の留学生が8月20日から23日までの4日間、能登町に滞在しました。留学生は3家族の家でホームステイし、久田和紙を使ったうちわ作りや、満天星でプラネタリウムを鑑賞するなど、能登の伝統や自然に触れました。22日には、柳田植物公園で開かれたござれ祭りに参加してキリコを担ぐなど、地域の人と交流を深めました。